東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年12月23日

いくつかの聖ハディース-1-

親愛なるムスリムの皆様。アッラーがどのような人を、どのようなものを愛されるのか、一緒にハディースから考察していきましょう。

アッラーの使徒は、軍団の長としてある人を遣わされました。彼は仲間たちに、礼拝時、クルアーンを読誦しましたが、いつでもイフラース章で締めくくっていました。彼らは戦いから戻ってきた折、アッラーの使徒にこのことを説明しました。アッラーの使徒は「彼に聞きなさい。なぜ、そのようにしたのかを。」とおっしゃられました。彼らが尋ねると、その人は「それは慈悲深きアッラーの特性であるからです。この章を読み、礼拝することが梳きなのです。」と答えました。これを聞かれた預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は言われました。「彼に知らせなさい。アッラーも彼を愛されています。」

アッラーの使徒は言われました。「二つの言葉があります。この言葉を、慈悲深きアッラーはとても好まれます。これらは言うのがたやすく、また善行が豊かにある言葉です。スブハーナッラーと、ビーハムディヒ　スブハーナッラーヒル　アズィーム」です。

アッラーの使徒は言われました。「アッラーは、タクワーを有し、心が豊かで、自らをイバーダに捧げ、名誉や地位から遠ざかり、我欲の鍛錬に励むしもべを愛されます。」

アッラーの使徒は言われました。「アイーシャよ。アッラーは優しいお方です。優しい振舞いを愛されます。厳しさや、他の振舞いに対しては与えられない善行を、優しい振舞いに対して与えられます。」

アッラーの使徒は言われました。「その心に、ほんのわずかであってもうぬぼれが存在する人は、天国にはいけません。」それに対し教友の一人が言いました。「アッラーの使徒よ、人は、自分の服や靴がきれいであることを好みます。」アッラーの使徒は、それはうぬぼれではないことを明らかにされ、「アッラーは美であられ、美しいものを愛されます。うぬぼれとは、自分を大きく見なし、真実を否定し、拒否すること、そして人々を蔑視することです。」とおっしゃられました。

アッラーの使徒は、体を覆わずに、皆の視野に入るところでグスルをしている人を見かけられました。その後、礼拝堂の台に上がられ、アッラーに感謝を捧げた後、次のようにおおせられました。「アッラーは、いと高く崇高であられ、慎み深くあられる。だから、慎み深さ、覆い隠すことを好まれる。誰であれ、グスルを行なう時は体を覆いなさい。」

アッラーの使徒は言われました。「アッラーは、何かを売る時、買う時、借金を払う時、借金をする時、寛容さを示すしもべを愛される。」

聖ハディースでは、アッラーは次のように語られています。「誰であれ、私に近くあるしもべに対し敵対すれば、私に対し戦いを挑んだことになる。信者であるしもべの魂を取り去る時ほど、私が心配する時はない。なぜならしもべは死を好まず、私は彼を悲しませることを好まないからである。しもべは、私が彼に対して義務と定めたイバーダを行なうことによって私に近くあろうとする以外に、より強固な手段で私に近づくことはできない。さらに、しもべは義務でないイバーダをも行い、私に近づく。彼は非常に近づくのであり、私もこのしもべを愛するのだ。私が誰かを愛したなら、彼の目、腕、足、耳に私はなる。」

アッラーが好まれる振舞いを実行する人、アッラーが愛されるしもべになれる人はなんと幸福なことでしょう。